

## 令和5年度滋賀県立安土城考古博物館運営懇話会開催の結果

### 1. 日時

令和6年3月14日（木）14時～16時

### 2. 会場

滋賀県立安土城考古博物館 会議室

### 3. 出席委員

末松史彦委員、坂田孝彦氏（代理出席）、國賀由美子委員、佐藤亜聖委員、岩崎奈緒子委員、勝身真理子委員、鶴飼裕紀委員、佐分利恒夫委員

（欠席）山本毅委員、木下達文委員

### 4. 内容

#### （1）報告事項

①安土城考古博物館の概要

②前回（令和4年度）運営懇話会における意見とその対応状況について

③令和5年度事業の実施状況について

④令和6年度事業計画（案）について

#### （2）その他

①安土城考古博物館の改修について

### 館長挨拶

・当館は今年で32年目を迎え、1年後の第一常設展示室のリニューアル（シアター）に向けて、3カ月間の休館にするなど、大きな転機を迎えている。コロナや近隣の大きな観光施設の影響、施設が古くなるなど、様々な課題を抱えている。3年前に指定管理申請をした際、入館者5万人を目標としたが、コロナが収束した現時点でも辛うじて4万人に届くかどうかの苦しい状況ではあるが、学芸員が新しくSNSを発信するなどの取組をしている。今期懇話会から博物館の専門の方にも集まってもらったので、本日は様々な観点からご意見をいただきたい

### ■主な意見

#### （博物館の役割）

・表向きは休館していても博物館のバックヤードは積極的に活動しており、収蔵品がいかに利用されているかということも事業報告の中に入れてほうが良い。博物館では、一般の収蔵品閲覧は少ないが、研究者が見たり、実際に貸し出すことが、博物館の存在を一般に知らしめる貴重な機会であり、その対応も学芸員の大きな実績である。博物館は展示をするだけの場所であるような報告、計画になっているが、滋賀県がこういう博物館を持っていることを見せる工夫が必要である。表向きの入館者数ではなく、作成した紀

要、目録や成果発表など、バックヤードを見える化していくことが、大きな役割である。一般の方や報道からのレファレンスに対する回答も記録に残し、会議で報告したほうが良い。

- ・博物館は公開することと同時に収蔵品を保存、修復をすることも、大事な仕事である。例えば修理した作品の記載がない。修理する予算がないのであれば、予算を付けてもらう方向に持っていくべき。修理予算について、外部資金獲得は博物館にとって必要で、そのことも報告すべき。
- ・来館者数が重視されているが、これは古典的な評価である。これからは資料の活用が評価のひとつの指針になると思う。

#### (入館者増への取組)

- ・関ヶ原古戦場記念館の入館者数は博物館にしては結構多いほうであるが、お互いに連携して SNS を活用するなど、関ヶ原が手薄な京都や大阪からの来館者を誘導する方法も考えていく必要があると思う。
- ・来館者について、愛知県が多く、と岐阜県隣と逆転しているが、岐阜県は隠れたリピーターを確保できる。関ヶ原古戦場記念館と連携し、掘り起こしができると思う。
- ・地元の市として館へのアクセス改善のため、バスを1台確保するのは困難だが、八幡地域と安土地域の連携は、課題として認識している。
- ・入館者は40代以上が8割だが、館として、若い世代に人にどういうメッセージを伝え、どういうことを学んでほしいのか。また、これまでに、このような世代向けに工夫されたことがあるのか。入館者数を増やすためには、知ってもらうことが重要で例えば、この懇話会の情報も中継するなど公開すべきだと思う。
- ・昨年、共催で、滋賀版に30周年の連載企画をし、京都版にも載せたので、京都からの来館も多かったのではないと思う。また、何かの機会に連載企画を考えてほしい。考古は地味なので見せ方が難しいので、一般向けに写真や学芸員イチオシの資料等を新聞で紹介していただければと思う。

#### (展示改修について)

- ・考古資料を展示する機会がないのが残念だが、縮小することのないようにしてほしい。
- ・この博物館は、もともと風土記の丘構想の中でできている博物館であり、地域の歴史研究・考古学研究の中核を担うという意図で作られたもの。時代に合わせて機能も変わるとは思うが、本来担っていた機能をどこかで果たしてほしい。また、博物館として、企画展・特別展を極力しっかりやっていく必要がある。また、復元品など目に見えるものは何らかの形で出せるように努力願いたい。
- ・声は出てないが、みんなが心配している。

- ・滋賀県は観光のために考古を粗末にしている印象を持たせるのではなく、文化財をどのように維持していくのかのPRが必要。
- ・シアターをリニューアルすることについて、デジタルを作れば何年か後には更新する必要があるが、県は必要経費を賄っていく覚悟はあるのか。デジタルのキャッチアップは難しく、どこも大変で、通常の博物館の利益で補えない。古くなると人は来ない。
- 踏み込んだ以上は県をあげて維持していくという意気込みが必要だが、その計画はどのようなになっているのか。
- ・デジタルのことを理解している人がいて、業者に対して渡り合えないと高くつく。3年ぐらいで陳腐化するので維持が難しい。

(まとめ)

- ・博物館はこの地域の文化の拠点で、その役割は大きい。リニューアル工事により、博物館も変わっていくので、指定管理の制約もあるが、今日の貴重なご意見を受けて来館者増に向けて頑張っていたきたい。